

株式会社ひろぎんホールディングス

2025 年 8 月 21 日開催 機関投資家向けスモールミーティングにおける質疑応答

- Q1： 持株会社体制に移行してから約 5 年が経過するなか、成果と課題について教えていただきたい。
- A1： 銀行とその他の事業会社を横並びに配置したことで、営業人員がグループ横断でセールスに従事できるようになった点は大きな進展である。一方、ひろぎん IT ソリューションズでは、銀行営業員の知識不足によりトスアップの質に課題が残るうえ、同社の事業モデルがソフト販売中心に偏っている。今後は IT コンサルティングを中核に据え、専門人材の登用を進めながら付加価値を高めていく。
- Q2： 社長が頭取を兼務しないことで生じる時間をどのように活用されているか教えていただきたい。
- A2： グループ全体のガバナンス強化と地域経済の活性化に注力している。具体的には、スタートアップと地元企業のマッチングや「東京ガールズコレクション広島」の開催支援などに取り組んでいる。
- Q3： 広島県において人口流出が止まらない背景と、現在講じている対策について教えていただきたい。
- A3： 流出数は大きく変わっていないが、流入者の減少が主な要因である。近隣県からの就職誘致や U ターンの促進に加え、観光を含む「関係人口」を増やす取り組みに注力している。
- Q4： 地公体等との連携状況について教えていただきたい。
- A4： 行政や大学も強い危機感を持っており、問題意識は共有されている。成果はまだ健在化していないが、地道な取り組みを続ければ、人口流出ワースト 1 は脱却できると考えている。
- Q5： 県内人口の減少が貴社の事業に与える影響について教えていただきたい。
- A5： 採用面では現時点で大きな問題はないが、地方経済力の低下が最大の懸念事項である。観光を含めた交流人口の拡大を通じて影響緩和を図っていく。
- Q6： 地銀再編について社長の見解を教えていただきたい。
- A6： 今後 10 年程度であれば単独でも事業継続は可能と考える。ただし 15～20 年先には人口減少や経済力の縮小により、近隣地銀との統合を検討せざるを得ない可能性がある。なお、広域での再編メリットは限定的であると考えている。
- Q7： <地域総合サービスグループ>として進めてきた施策について教えていただきたい。
- A7： 地域活性化を目指し、地域開発、人材不足解消、外国人労働者受け入れといった地域社会の課題に応じて新会社を設立し、事業を展開している。今後も地域社会・取引先のニーズに応じて柔軟な事業展開を進めていく。
- Q8： 貴社の強みと課題を教えていただきたい。
- A8： 当社の強みは、長年の歴史に裏打ちされた地域での確かな存在感と、法人ソリューション分野の質にあると考えている。自動車や船舶といった地域を代表する産業分野において蓄積された知見は、他社にはない優位性を有していると自負している。一方、銀行と非銀行子会社の連携深化や有価証券ポートフォリオの高度化に改善余地がある。
- Q9： 預金の伸び率が鈍化している要因を教えていただきたい。
- A9： 主な原因は人口減少と他行の高金利攻勢である。遺言信託や定期預金のキャンペーンの活用によって預金流出を抑制していく。
- Q10： DX・IT 戦略について教えていただきたい。
- A10： 無担保ローンや融資審査フローのデジタル化など、業務効率化・生産性向上に向け着実に取り組んでいる。

る。

Q11：株価・PBRに対する自己評価を教えてください。

A11：株価は金利環境により安定しているが、満足水準には至っていない。PBRについては1倍達成を目標とし、法人ソリューション強化やポートフォリオ改善を通じてROE・RORAの向上を図る。

Q12：トランプ関税が自動車関連企業に与える影響を教えてください。

A12：北米依存からアジア市場向け中・大型車へのシフトが必要である。一次サプライヤーは堅調だが、二次以下は再編が進む可能性がある。当社にとってはM&A等のコンサルティング機会につながると捉えている。

Q13：船舶関連産業の現状について教えてください。

A13：新造需要は堅調で資金需要も旺盛だと認識している。引き続き外貨調達コストの厳格な管理を徹底していく。

Q14：エクイティ投資の展望を教えてください。

Q14：グループ全体でGP・LP出資で約500億円の状況である。残高1,000億円を目指すなか、人材育成を進めている。

Q15：人的資本投資について、リスクリングの対応状況を教えてください。

A15：従事者各人の希望を尊重したうえで、研修・トレーニー派遣等を通じてスキル開発を支援している。シニア層についてはリスクリング支援を進めるとともに、「マネジメントをしない管理職」としての役割・ポストを拡充している。

Q16：今後成長を特に期待しているグループ企業について教えてください。

A16：ひろぎん証券およびひろぎんリースに期待している。銀行以外のグループ会社で当期純利益40億円を目標としている。

Q17：ウェルスマネジメントビジネスの方針について教えてください。

A17：ひろぎん証券は、仕組債の販売停止以降、業績が低調に推移しており、改善が急務である。銀行と証券の役割分担を再整理し、事業展開を進めていく。

Q18：貸出金残高増強に向けた戦略について教えてください。

A18：地元中小企業へのリスクテイクを軸とし、ストラクチャードファイナンスの展開を強化する。

Q19：政策保有株式の方針を教えてください。

A19：現状純資産対比18%程度であり、中計最終年度に15%以下を目標としている。政策保有株式「ゼロ」は非現実的ではあるが、発行体との対話を通じて段階的に削減していく。

以上